

## 祝辞

武蔵大学、並びに大学院へ御入学の皆さん、誠にめでたくございます。

今日までの勉強と努力の甲斐があつて、この伝統ある武蔵大学へ入学された皆さんに心からお祝いの言葉を送ります。又このように優れた御子弟をお育てになられた保護者の方々にもお祝い申し上げます。

武蔵大学が創立されたのは、一九四九年であり、今年二〇一七年度には創立六八周年になります。武蔵大学の前身は、一九二二年に創立された旧制武蔵高等学校であり、そこから数えますと武蔵学園にとって今年二〇一七年は、創立九五周年と言つことになります。そして二〇二二年には創立一〇〇周年を祝おうと、武蔵大学、武蔵高等学校・中学校の三者が協力して、武蔵学園一〇〇周年記念事業と取り組んでいるところです。

現在世界的にグローバル化、国際化があらゆる分野で進んでおり、大学教育でもグローバル人材の育成がきわめて必要になっています。武蔵学園はそのためまさに理想的な教育を長年行っています。

先程山崎学長も述べられました。武蔵学園は、旧制高等学校以来三つの理想を目指して教育を行っております。その三つの理想とは、皆さんを

- 一、東西文化融合のわが民族理想を遂行し得べき人物
- 二、世界に雄飛するにたえる人物
- 三、自ら調べ自ら考える力ある人物

へと育成することであり。私も七〇年前この講堂で旧制武蔵高等学校の入学式に出席しました。当時の宮本和吉校長よりこの三理想についての講話を聞いて以来私の生涯の指針としてきました。この三理想は作られてから既に一〇〇年に近い年月が経ちましたが、まったく古くなく、急激に国際化が進みグローバル化が叫ばれる現代の教育においてもきわめて適切なものです。改めて本学の先駆者に敬意を表する次第です。

今日まで私自身この三理想を目標に努力しました。先ず一九五八年理学博士の学位を得てその翌年一九五九年からアメリカのシカゴ郊外のアルゴンヌ国立研究所に、研究者として就職して一年半を過ごしました。その後ニューヨーク州立のラトガース大学とプリンストン大学の客員教授として一年半、さらにニューヨーク州立大学のストーニーブルク校の教授として終身在職、即ちフェローを得て長期に二年間、短期に六カ月及び三カ月を二回過ごしましたし、イギリスのオックスフォード大学やオランダのフローニンゲン大学、フランスのサクレ研究所等々で三カ月滞在して研究しました。すべてを合わせるとほぼ七、八年海外で教育と研究をしましたが、これは何とかして武蔵の教育の三理想、特に二番目の世界に雄飛するにたえる人間になろうと努力した結果です。

二〇一四年三月根津公一理事長はこの理想に基づき理事長ドクトリンを発表され、「まなざしを世界に向け、二一世紀の課題を担う国際人を育てる学校を目標とする」ことを提案されました。ここで学校とは武蔵大学、武蔵高等学校、中学校全体を意味します。それを受けて学園長プランを作り、その大きな目標を「世界に開かれたリベラルアーツの学園となることを目指す」としました。勿論大学ではその上に優れた専門教育をすることが大きな使命であることは明らかです。

経済学部では武蔵大学とロンドン大学と、両方の学位が得られるパラレル・ディグリー・プログラム、人文学部ではグローバル・スタディーズコース、そして社会学部ではグローバル・データサイエンスコースなどグローバル教育を大いに進めています。このようなコース以外の学習課程でも各学部はそれぞれの専門教育をしっかりと行いつつ、今日の国際化した時代にふさわしい教育を行っています。そして特にゼミナールで徹底的に自分で考え、きちんと発言し討論することが出来るようにしています。日本人はこの討論、即ちディベートが不得手ですが、国際化の時代討論を行える力は絶体に必要ですのでしっかりと訓練して下さい。

皆さんはこの武蔵大学で教養を十分に身につけ、外国語をしっかりと学び、ゼミナールで討論力を強め、さらにそれぞれの専門の分野での実力を研いて下さい。その上で受身でなく常に自ら調べ自ら考える力のある人物になって下さい。

新入生の皆さんが健康に気をつけ、学問を楽しみ、運動に汗を流して、この武蔵野の面影が残る美しいキャンパスで楽しい日々を送って下さることを祈念しつつ、お祝いの言葉といたします。

皆さんご入学おめでとうございます。保護者の方々もおめでとうございます。

平成二十九年四月二日

武蔵学園長 有馬朗人